

勅

三

丙
一五六一

立案 昭和 年 月 日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁



宮内事務官

故陸軍中將磯村武亮外五名位
階追陞，件

昭和三十年八月二十日裁可
臺帳記入九月廿五日官報報告

昭和三十年八月二十日

裏面白紙

354



故陸軍中將磯村武亮外五名位階追陞ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年八月三十日

内閣總理大臣 稔彦 王

内

閣

裏面白紙

人陸位第二八九號

起	案	昭和三十年八月	日	裁可	昭和三十年八月	日	施行	昭和	年	月	日
---	---	---------	---	----	---------	---	----	----	---	---	---

内閣總理大臣 齋藤

内閣書記官長 方

故陸軍中將磯村武亮外五名位階追陞ノ件

辭令 安示 例文

内閣

356

勅令第一二八号

陸軍

敍從四位 昭和三年八月十日死亡 故陸軍中將 正五位 磯村 武亮

大正五年十月廿日陸軍少尉以来在職十年以上

右文武官 敍位進階内則 第四條、二依り

謹々奏又

昭和三年八月 日

陸軍大臣 下村 定



敘從四位 昭和二十年八月二日死亡 故陸軍技術少將正五位 井上 盛義

昭和二十年七月廿一日陸軍技術師以兼在職十一年以上

右文武官敘位進階内則第四條ノニニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年八月日

陸軍大臣 下村 定



内閣人陸軍部(一八)

陸軍

叙従四位 昭和二十年七月十日死亡 故陸軍少将 正五位 大島 武彦

大正八年十一月廿五日 陸軍少将以来在職十年以上

叙従四位 昭和二十年八月六日死亡 故陸軍少将 正五位 坪谷 英五郎

大正三年十二月廿六日 陸軍少将以来在職十年以上

右文武官叙位進階内則等四條、二に依り

謹言奉

昭和二十年八月日

陸軍大臣 下村 定



陸軍大臣 下村 定

敍從四位 昭和三十年八月有死亡 故陸軍少將正五位 瀨川 寛

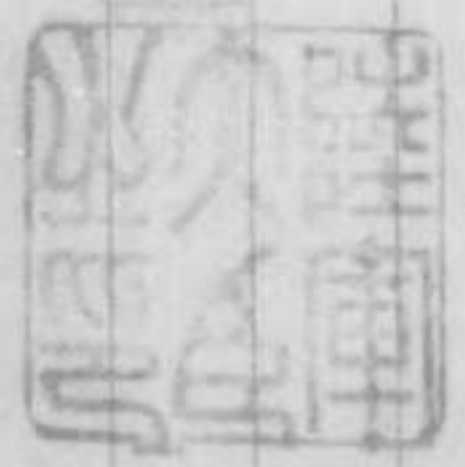
大正七年十月有陸軍少尉在職中火上

右文武官敍位進階内則第四條ノニ依リ

謹テ奏ス

昭和三十年八月 日

陸軍大臣 下村 定



陸軍

めくれず

内閣人選位第一八

叙從四位 昭和三十年八月十日死亡 故陸軍少將 正五位 濱嶋 巖郎

大正十百廿六日陸軍少尉以末在職十年以上

右文武官叙位進階内則第四條ノニ依リ

謹テ奏ス

昭和三十年八月 日

陸軍大臣 下村 定



陸軍

めくれず

陸位第一〇三〇號

位階追陞ノ件進達

昭和三十年八月 日

陸軍大臣 下村 定

内閣總理大臣 齋藤 隆夫

故陸軍中將 磯村 武亮 位階追陞ノ件

右進達ス

追テ本人ハ七月十日雁ノ集ヨリ立川ニ向テ航空機ニ依リ
赴任途中山梨縣下ニ於テ敵機ノ攻撃ヲ受テ戦死ヲ遂
ケルモノニテ既ニ文武官叙位進階内則所定ノ取扱期
限ヲ經過致候ニ共特ニ昭和三十年八月二十日閣議第三九
七號ノ趣旨ヲ適用シ生前ノ日附ヲ以テ發令セラルノ様

取計相成度

官報不登載

陸



陸位第〇三三號

銚位、件進達

昭和二十年八月日

陸軍大臣 下村 定

内閣總理大臣 稔 彦 王 殿

故陸軍技術少將 井上 成 血 義 位 階 追 陞、件

右進達又

昭和二十年八月廿一日期滿

官報不登載



陸



陸位第二〇〇二號

位階追陞、件進達

昭和二十年八月一日

陸軍大臣 下村 定

内閣總理大臣 総 彦 王 殿

故陸軍少將 大畠武彦外一名位階追陞、件

右進 達ス

進少將大畠武彦ハ七月十日南方方面ヨリ航空機ニ依リ内地ニ赴任
途中山梨縣下ニ於テ敵機ノ攻撃ヲ受ケ又坪谷英五郎ハ八月六
日廣島市ニ於ケル災禍ノ際戦死ヲ遂ケタルモノ有之内大畠武
彦ハ既ニ文武官叙位進階内則所定ノ取扱期限ヲ經過致候、其
特ニ昭和十二年八月二十一日閣議第三九七號ノ趣旨ヲ適用シ生前
ノ日附ヲ以テ發令セラル、採取訂相成度

官報不登載

陸



陸位第二〇二二號

位階追陞ノ件進達

昭和三十年八月 日

陸軍大臣 下村 定

内閣總理大臣 齋藤 隆夫

故陸軍少將 瀨川 寛 位階追陞ノ件

右進達ス

昭和三十年九月四日期満

官報不登載

陸



365

めくれず

陸軍第三〇五號

位階追陞ノ件進達

昭和三十年八月

日

陸軍大臣 下村

定

内閣總理大臣

裕彦 王殿

故陸軍少將

濱

嶋

巖郎

位階追陞ノ件

右進達ス

昭和三十年九月九日期満

官報不登載



陸

軍

